

3. 戦時下の広尾 1939~1945

戦争は東京女学館の学校生活の様々な面に影響を及ぼしました。

まず、白いセーラー服が着用できなくなり、軍事教練と勤労働員にも駆り出されることが多くなりました。1945年5月、ついに戦火は女学館を直撃。空襲で雨天体操場が焼失し、講堂に焼夷弾が直撃しました。

特筆すべきは、戦時中にあっても、敵性外国語として排斥された英語の授業が、途切れることなく続けられたことです。

学校・教育関係

第二次世界大戦

1939 (昭和 14) 年



第7代館長 松浦鎮次郎

訓練作業(慰問袋作成・洗濯・除草)

戦時色濃厚、勤労働員が本格化

1943 (昭和 18) 年



シンガポール陥落を祝って生徒が黒板に書く (昭和 17 年 3 月)

白菊会勤労報告隊結成



白い制服が国防服に変わった

校章、校旗制定

学則改正 普通科を中等科、小学部を初等科と改称

1944 (昭和 19) 年



勤労働員 田中航空計器製作所にて大森工女の人たちと一緒に (昭和 19 年 12 月)

関東信越地方総覧府へ動員、東京女学館学徒隊組織

1945 (昭和 20) 年

原爆投下、ポツダム宣言受諾 (敗戦)

9月 授業再開

校舎関係



戦時下の「品性」

敵性語の授業が縮小されても、世界を知るために英語教育は役に立つとされていました。



罹災した校舎と講堂

5月 東京大空襲 雨天体操場焼失、講堂に焼夷弾命中

大成建設(旧大倉土木)により講堂下の本館を応急修復工事

校章、校旗の制定

校章と校旗は、太平洋戦争中に作られました。校章は、戦争の拡大とともに白いセーラー服が着用できなくなり、他校の生徒と区別するために必要となったものです。校旗が初めて使用されたのは、明治神宮外苑競技場で行われた出陣学徒壮行会に参加した時でした。校章図案については展示室に詳しい説明があります。

奉安殿について

奉安殿とは、戦前の日本において学校に下賜された天皇・皇后の写真である「御真影」と教育勅語等を納めた建物です。東京女学館の場合、御真影は講堂に設置されていたことが、当時在校していた卒業生の証言によってわかりました。奉安殿のなかった学校は珍しかったようです。

48年ぶりの卒業式

1993(平成 5)年 3 月 8 日、本校講堂において還暦を迎えた 15 名の卒業式が挙行されました。卒業生は、太平洋戦争末期の混乱のために修了証書を授与されなかった方々です。代表の方から要請を受けて学校側が取り計らい、本校卒業式のリハーサルの日を利用して、後輩たちの見守る中、48年ぶりの卒業式が実現したのです。

